

『カミジュリ!』

■あらすじ

漫画家志望の大学生桐山はクリスマスの夜に憧れに先輩に告白、交際をすることになる。しかしこの恋には大きな障害が待っていた。彼女の実家は【神社】を桐山の実家は【教会】を営んでいたのだ。月日は流れ、彼女の妊娠をきっかけに二人は見ぬふりをしてきたこの難問に立ち向かわねばならぬことになる。そして迎えた両家の会食の場。果たして結婚は認められるのか？

■登場人物

桐山良人（きりやまよしと・男・20歳/25歳 大学生／漫画家）  
進藤奈美（しんどうなみ・女・22歳/27歳 大学生／OL）  
進藤照夫（しんどうてるお・男・52歳 神主）  
桐山真里子（きりやままりこ・女・55歳 シスター）

○大学・サークル棟屋上（夜）

奈美「うー、さぶっ。屋上なんて呼び出してどうしちゃった？」

桐山「その……聞いて下さい！僕、先輩のことが……先輩の事がずっと好きでした……！」

一時の沈黙。遠くから男たちのメリークリスマス！という乾杯の音頭が聞こえてくる。

奈美「ぶっ……ははははは」

桐山「お、おかしいですよね僕なんか……」

奈美「なんかタイミング凄いな。なにこれ……ああ驚いた。なんか……凄いや」

桐山「先輩？」

奈美「あれ？ねえ見て。雪降ってきた」

桐山「え？……本当だ」

奈美「私ね、桐山君の漫画好き。でもそれと同じくらい……桐山君のことも好きかも」

桐山「え？」

桐山のM「言葉が出なかった。それはまるで漫画のような展開。クリスマスの奇跡ともいっべき……そう、その時の僕は本当はこう叫びたかった。凄い奇跡だ。神様ありがとう！」

○夜道

奈美「おえ。飲み過ぎた」

桐山「無理して初詣いかななくても……」

奈美「馬鹿言わないで。それでも日本人？」

桐山「でもその状態で人ごみのは……」

奈美「だいじょぶだいじょぶ。超穴場だから。ほらついた、この神社……おえ」

桐山「先輩！まったくもう、少し休みましょう。何か飲み物買って……」

そこに照夫がやってくる。

照夫「お前何してる」

桐山「あ！神主さん？す、すみません、境内では吐いたりとかは……」

奈美「丁度いい所に……お水頂戴、お父さん」

桐山「え？……お父……さん？」

桐山のM「また言葉が出なかった。世界に数多ある職業の中でよりによって……神様……これは一体どういふつもりでしょうか」

桐山の携帯が鳴る。

○桐山の実家

真里子が電話をかけている。

真里子「メールみた？母さん渾身の作だよ」

桐山「あのさ、俺はただの漫画家志望だよ。それなのに俺のファンサイトとか……恥ずかしいからやめてよ」

真里子「馬鹿言うんじゃないよ。家業継がなかったんだから立派な漫画家になって帰ってきてもらわないとね。そうだしそれよりアンタ彼女出来たんだって？」

桐山「は？なんでそんなこと……」

真里子「麻布の叔父さんが綺麗な子と歩いてるアンタ見たって電話してきたのよ。そういうことは早く報告なさいよ」

桐山「別に話すようなことでも……」

真里子「あるでしょ。アンタが綺麗なお嫁さんとウチで式を挙げる。それがあたしの一番の願いなんだよ。肝に銘じておきなさい！」

桐山のM「言葉に詰まってしまった。そう、僕の実家は地方で小さな教会を営んでいる。そして母はと言えば、この通りなわけで……。でもこれはきつと青春を彩る一つの恋に過ぎな

い。僕はそう考えていました……しかし」

○桐山のマンション

奈美が帰ってくる。

奈美「はあ、疲れたあ」

桐山「お帰り。ご飯もうすぐ出来るよ」

奈美「あれ？もう原稿終わったの？」

桐山「午前中には。これでも筆の速さだけは定評があるんだよ」

奈美「だけじゃないでしょ。今度のは評判だっていいでしょ。父さんも毎月買ってるってよ。おかしいよね。子供向け漫画なのにね」

桐山「だと思った。ファンレターの中にやたらと達筆な筆文字が混じっててさ。そうだ、明日休みでしょ？どこか行かない？ほら、僕らももう5年でしょ。外で食事でも……」

奈美「あ、ごめん。明日は病院行きたいかも」

桐山「え？どこか悪いの？」

奈美「悪いっていうか……むしろおめでたいことかも……って言ったら……嫌？」

桐山「え？……それって……」

○レストラン

携帯をいじっている桐山。

奈美「なに？メール？東京についた……早く未来のお嫁さんの顔がみたい……ねえ、まさかとは思うけど……まだ話してないの？」

桐山「うん」

奈美「なんで？だって今日は父さんに会ってもらうんだよ？隠しきれるものじゃ……ごめん、でも私も言っていない。ああどうしよう」

桐山「はあ。ロミオとジュリエット状態だ」

奈美「それって最後はバンドエンドだよ」

桐山「それじゃ困る。お願いです！神様どうか丸く納めて下さい！！」

奈美「それってどっちの神様？」

桐山「え？どっちも！！はあ。あ、メール。……もう店についたって……え？」

真里子と照夫が一緒にやってくる。

奈美「父さん……」

桐山「母さん……え？どうして一緒に？」

照夫「思いの外近かったですね、管理人さん」

真里子「ですね、テルリンさん」

桐山「テルリン！？どういうことだよ？」

照夫「彼女の作った君のファンサイトの常連だね。結構昔から面識があったんだ」

奈美「はあ？じゃあその……家業のことも」

照夫「当然。良人君……君に話がある」

桐山「す、すみません！も、もっと早く……」

照夫「先月号のあれは本当に魔王は倒されたのかね？気になるんだよ」

桐山「え？あの……怒ってないんですか？」

真里子「なんで怒るのよ。あ、ひよっとして結婚反対するとも思ってたわけ？」

照夫「どうしてだね。まあ確かに予想外ではあったが……それは一番面白い事じゃないか。

その事は君が一番知っているだろう」

真里子「どっちの神様も大賛成よ」

照夫「作者だって神様と同じじゃないのかね。登場人物が予想外の行動をとったとしても、それが良い物語を紡ぐなら嫌な気はしないだろう？」

真里子「私からの注文は一つ。アンタは自分の描いてる漫画よりもずっと面白い物語を奈美さんと一緒に作るんだよ。あたしらそれが一番の楽しみなんだから」

照夫「お願いだよ。奈美と私達の神様」

奈美「父さん……」

桐山「……はい。もちろんです！！」

## 【終】

### ※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 ([gumba127@hotmail.com](mailto:gumba127@hotmail.com)) までメール一報頂きますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

### ※連絡不要の場合

- ・ 仲間で集まつての練習でのご利用。
- ・ Skypeなどを介しての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

### ※連絡が必要となる場合

・ツイキャスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。  
・連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

[gumbal227@hotmail.com](mailto:gumbal227@hotmail.com) (岩本)